

（基礎知識の修得・復習。内容的には、「国際金融論Ⅰ」と重複する部分があります。）

※£はイギリスの通貨ポンド・スターリング、€は欧州の単一通貨ユーロ、RMBは中国の通貨人民元を意味する。

設問 01 下の各説明文について、正し文の番号を掛け算すればいくつになるか、整数で解答しなさい。正しい文が一つもない場合には、数字のゼロ「0」を解答しなさい。ただし、1番の文は存在しない。解答欄⇒ [24]

2. $\$1 = ¥100$ と $\$1 = ¥105$ では、同じ1ドルを得るために右のレートの方が多くの円が必要なので、右のレートの方が、円安・ドル高である。
3. スイカを収穫して市場に行き、みかんと物々交換したとする。同じスイカの量でより多くのみかんと交換できたということは、スイカの値段がより高いということである。
4. ジュース1本が100円と110円では、右の方が値段が高い。ということは、物価が上がるということは、通貨の値打ちが下がるということである。
5. $£1 = €2$ と、 $€1 = £2$ では、左のレートの方がユーロ高・ポンド安である。

設問 02 下の各説明文について、正し文の番号を掛け算すればいくつになるか、整数で解答しなさい。正しい文が一つもない場合には、数字のゼロ「0」を解答しなさい。ただし、1番の文は存在しない。解答欄⇒ [3]

2. 現在、 $€1 = \$1.2$ であるが、近い将来 $€1 = \$1.1$ になると思うとき、ドルは安くなると予想していることになる。
3. $\$1 = ¥110$ といったレートの表記の仕方の場合、ドルを円に換算するときは右側の数字（110）を掛け、円をドルに換算するときは、右側の数字で割るとよい。
4. $\$1 = ¥110$ といったレートの表記の仕方の場合、右側の数字（110）が小さくなるということは、円が安くなるということである。

設問 03 ある同じ日時に、北方為替市場で $\text{Seiran}1 = ¥150$ 、城野為替市場で $\text{Seiran}1 = ¥140$ であると仮定する。このときに起きる現象を説明した下の各文について、正し文の番号を掛け算すればいくつになるか、整数で解答しなさい。正しい文が一つもない場合には、数字のゼロ「0」を解答しなさい。ただし、1番の文は存在しない。解答欄⇒ [48]

2. 北方では Seiran 売り・円買い、城野では Seiran 買い・円売りが起きる。
3. 北方では Seiran 買い・円売り、城野では Seiran 売り・円買いが起きる。
4. 北方では Seiran 安・円高、城野では Seiran 高・円安に向かう。
5. 北方では Seiran 高・円安、城野では Seiran 安・円高に向かう。
6. 裁定取引の結果、二つのレートは収れんする。
7. 投機取引の結果、二つのレートは収れんする。
8. 裁定という投機取引の結果、二つのレートは収れんする。

設問 04 $\$1 = ¥150$ 、 $\$1 = \text{RMB}5$ 、 $€1 = \$1.1$ のとき、下の各説明文（①以下）について、正し文の番号を掛け算すればいくつになるか、整数で解答しなさい。正しい文が一つもない場合には、数字のゼロ「0」を解答しなさい。ただし、①番の文は存在しない。解答欄⇒ [5]

- ②15 人民元は、500 円である。× ③7 ユーロは 1050 円である。× ④30 人民元は 6 ユーロである。× ⑤20 ユーロは、110 人民元である。○

設問 05 下の 1.以降の各レート of 組合せにおいて、左のレートと右のレートを比較したときに、左の列のレートについて説明した各文が正しいければ 1 を、間違いであれば 2 を解答しなさい。

1. £1=€1.3 £1=€1.5

左のレートの方が、相対的にポンド高・ユーロ安である。解答欄⇒ [2]

2. 玉ねぎ 5 袋=じゃがいも 3 袋 玉ねぎ 4 袋=じゃがいも 3 袋

左のレートの方が、相対的にじゃがいも高・玉ねぎ安である。解答欄⇒ [1]

3. \$10=¥1,500 \$12=¥1,500

左のレートの方が、相対的に円高・ドル安である。解答欄⇒ [2]

設問 06 国際通貨の機能を分類した下の表の①～⑥に入る適切な語句を下の選択肢からそれぞれ選び、記号で解答しなさい。ただし、選択肢の中には、不必要なものが含まれている。※各セルの [] は解答記入欄。

— 選択肢 —

a. 介入通貨、b. 契約通貨・建値通貨、c. 調達通貨、d. 準備通貨、e. 基準通貨（アンカー通貨）、f. 取引通貨・為替媒介通貨、g. 基軸通貨、h. 資産通貨

	価値の尺度	交換手段（支払・決済手段）	価値の保蔵
公的レベル	① [e]	② [a]	③ [d]
私的レベル	④ [b]	⑤ [f]	⑥ [h]

設問 07 下の表①～⑤それぞれの、左の列のレートを右の列のレートと比較したとき、左の列のレートについて説明した各説明文が、正しければ 1 を、間違いであれば 2 を解答しなさい。

①	\$1=¥110	\$1=¥105
②	€1=\$1.1	€1=\$1.2
③	金 2 グラム=銀 14 グラム	金 1 グラム=銀 14 グラム
④	リンゴ 5 個=ぶどう 6 房	リンゴ 4 個=ぶどう 5 房
⑤	110 円=水 1 本	100 円=水 1 本

1. ①は円高、②はユーロ安、③は銀高、④はリンゴ高、⑤は円安 解答欄⇒ [2]

2. ①は円安、②はユーロ高、③は銀高、④はリンゴ高、⑤は円安 解答欄⇒ [2]

3. ①は円安、②はユーロ安、③は銀高、④はリンゴ安、⑤は円安 解答欄⇒ [1]

4. ①は円安、②はユーロ高、③は銀安、④はリンゴ高、⑤は円高 解答欄⇒ [2]

5. ①は円高、②はユーロ高、③は銀安、④はリング高、⑤は円高 解答欄⇒ [2]

6. ①は円安、②はユーロ安、③は銀安、④はリング高、⑤は円安 解答欄⇒ [2]

設問 08 基軸通貨について説明した以下の各文が正しいければ 1 を、間違いであれば 2 を解答しなさい。

1. 自国の為替レートの安定性等を勘案するために参照する外国の通貨を基準通貨という。

解答欄⇒ [1]

2. 生命保険会社が持つ外貨建ての資産は、準備通貨に分類される。解答欄⇒ [2]

3. 円から人民元に換えたいときに、間にドルを入れる場合、このドルは為替媒介通貨として機能している。解答欄⇒ [1]

4. 輸出入の決済に使われる外貨のことを契約通貨という。解答欄⇒ [1]

5. 通貨当局が外国為替市場で取引する際に使う外貨は、資産通貨である。解答欄⇒ [2]

6. 東京外国為替市場で取り引きされる通貨ペアとしては、円・ドル取引が一番多い。このとき、ドルは取引通貨として多く機能している、といえる。解答欄⇒ [1]

設問 09 以下の各文は、各種の為替制度を説明したものである。それぞれの説明文に最も該当する為替制度はどれか、下の選択肢から選び番号で解答しなさい。ただし、選択肢には不要なものが含まれている。

- a) マネタリーベース（現金通貨）の発行量を外貨準備の増減とリンクさせることで、為替レートを強力に固定しようとする制度。解答欄⇒ [3]
- b) 平価の上下 1%の範囲を越えて為替レートが動かないようにするとともに、構造的な不均衡がある場合には平価の変更を許容する制度。解答欄⇒ [1]
- c) 固定相場制であるものの、為替レートの変動幅をある程度ゆるやかに設定している制度。解答欄⇒ [14]
- d) レートの変化は許容するものの、必要に応じて為替市場への介入がある制度。解答欄⇒ [4]
- e) 複数の外貨に対してバランスよく自国通貨の価値を安定させようとする制度。解答欄⇒ [11]
- f) 為替レートについては基本的に何もせず、民間レベルでの市場の動向に任せる制度。解答欄⇒ [8]
- g) 金（きん）およびそれに兌換可能な外貨に対して、各国が自国通貨のレートを固定させる制度。解答欄⇒ [5]
- h) 平価の上下 1%の範囲を越えて為替レートが動かないようにする制度。解答欄⇒ [10]

[選択肢]

1.アジャスタブル・ペッグ、2.為替介入固定制、3.カレンシーボード制、4.管理された変動相場制、5.金為替本位制、7.金兌換ペッグ、8.クリーン・フロート、9.クローリング・ペッグ、10.古典的固定相場制、11.バスケット・ペッグ制、12.マネジメント・フロート、13.ムービングバンド、14.ワイドーバンド

設問 10 固定相場制と変動相場制を対比した下の各文の中で、マンデル＝フレミングモデルとしての理論的な説明として正しい文の番号を掛け算すればいくつになるか、整数で解答しなさい。正しい文が一つもない場合には、数字のゼロ「0」を解答しなさい。ただし、1 番の文は存在しない。解答欄⇒ [0]

- 2. 固定相場制では、金融政策を自由に実施できるが、財政政策は無効である。
- 3. 変動相場制では、財政政策を自由に実施できるが、金融政策は無効である。
- 4. 固定相場制では、金融政策も財政政策も無効である。
- 5. 変動相場制では、金融政策も財政政策も有効である。

設問 11 ある日本企業が、ドル建ての資産を 1000 万ドル、ドル建ての負債を 1200 万ドル持っているとする。為替レートが、 $\$1=\text{¥}100$ から $\$1=\text{¥}130$ に変化するとき、為替評価損益がどのように発生するだろうか。以下の各問について、正しい解答を選択肢からそれぞれ一つ選びなさい。

①ドル建ての資産側のみ考えた場合、為替評価損益はどうか。解答⇒ [1]

〔選択肢〕

1. 資産が 10 億円から 13 億円に変化するのだから、3 億円の得である。
2. 資産が 10 億円から 13 億円に変化するのだから、3 億円の損である。
3. 資産が 13 億円から 10 億円に変化するのだから、3 億円の得である。
4. 資産が 13 億円から 10 億円に変化するのだから、3 億円の損である。

②ドル建ての負債側のみ考えた場合、為替評価損益はどうか。解答⇒ [2]

〔選択肢〕

1. 負債が 12 億円から 15.6 億円に変化するのだから、3.6 億円の得である。
2. 負債が 12 億円から 15.6 億円に変化するのだから、3.6 億円の損である。
3. 負債が 15.6 億円から 12 億円に変化するのだから、3.6 億円の得である。
4. 負債が 15.6 億円から 12 億円に変化するのだから、3.6 億円の損である。

③上の①と②の損益を合算（得マイナス損の計算）すると、為替評価損益はどうか。

解答⇒ [4]

〔選択肢〕

1. 得：6 億 6 千万円。2. 損：6 億 6 千万円。3. 得：6 千万円。4. 損：6 千万円。

④ドル建ての資産と負債の差額を出発点として考えた場合、正しい説明は以下のどれか。

解答⇒ [3]

〔選択肢〕

1. 純資産が 200 万ドルだから、30 円分の円安によって、6 千万円の得となる。
2. 純資産が 200 万ドルだから、30 円分の円高によって、6 千万円の得となる。
3. 純負債が 200 万ドルだから、30 円分の円安によって、6 千万円の損となる。
4. 純負債が 200 万ドルだから、30 円分の円高によって、6 千万円の損となる。

設問 12 下の表は、為替レートの変化によって日本企業にどのように評価損益が出るかについてまとめたものである。表の各セル①～④に「損」または「益」を入れる場合、正しい組合せはどれか。一つを選んで番号で答えなさい。ただし、選択肢の中の表記は、①～④の順に左から書かれているものとする。解答⇒ [1]

	ドル建て資産	ドル建て負債
ドル高	[①]	[②]
ドル安	[③]	[④]

〔選択肢〕

1. 益、損、損、益 2. 益、益、損、損 3. 損、益、益、損 4. 損、損、益、益

設問 13 下の各説明文について、正し文の番号を掛け算すればいくつになるか、整数で解答しなさい。正しい文が一つもない場合には、数字のゼロ「0」を解答しなさい。ただし、1番の文は存在しない。解答欄⇒ [12]

2. 為替持高操作（為替持高調整ともいう）は、外貨の支払いと受取りの過不足がうまくいくようにする取引であり、為替資金操作（為替資金調整ともいう）は外貨建ての資産と負債による為替リスクを無くそうとする取引である。
3. 最初に総合持高に対して為替持高操作を行い、次に為替資金操作を行えば、為替持高はスクエアのままで、外貨に伴うリスクを無くすことが、原則として可能である。
4. 直先スワップ取引とは、直物為替取引としての売り（買い）と、先渡し為替取引としての買い（売り）を同時に行う取引である。
5. アウトライトの先渡し取引とは、2営業日後での決済を直ちに行うために、外貨の売りまたは買いを現時点で完了させることである。

設問 14 金融デリバティブ取引に関して説明した下の各文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

1. 金融デリバティブ取引は、金融派生商品（取引）とも呼ばれている。現物の取引から派生して生み出されている取引である。解答欄⇒ [1]

2. 金融デリバティブ取引の例としては、オプション、スワップ、先物・先渡し、CDS などがある。

解答欄⇒ [1]

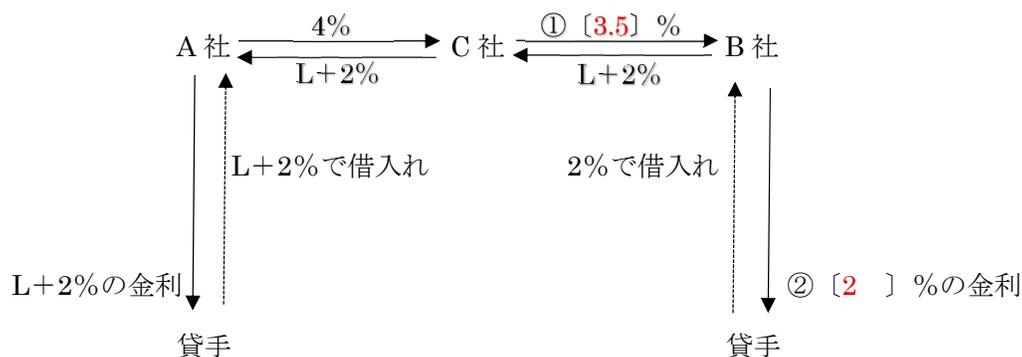
3. 先物と先渡しの違いは、前者が相対で行われるのに対して、後者は取引所で規格化された方法で行われることである。解答欄⇒ [2]

4. 異なる通貨の間で、金利と元本の両方を交換するデリバティブ取引は、為替スワップである。解答欄⇒ [2]

設問 15 A 社と B 社の資金調達コスト（借入れ金利）が下の表の状態であると仮定する。ただし、L は指標金利を意味し、A 社は固定金利、B 社は変動金利での借入れを望んでいる。

	固定金利	変動金利
A 社	希望：5%	実際：L+2%
B 社	実際：2%	希望：L+1%

このとき、金融機関 C 社が仲介に入って金利スワップ取引をした様子をその下の図のように表した場合、二カ所の [] ①②に入る数値は何か、解答しなさい。ただし、C 社が受け取る手数料分は、0.5%であると仮定する。



以上の金利スワップ取引の結果、各社が得られる利益を下の表のようにまとめた場合、それぞれの

①以下の〔 〕に入る数値を解答しなさい。

	利益	利益計算の根拠
A社	③〔 1 〕%	自身が固定金利で借り入れた場合は、④〔 5 〕%のところをC社に4%の金利を支払うのだから、③〔 1 〕%分低い金利負担で済んでいる。
B社	⑤〔 0.5 〕%	貸手への支払い金利が⑥〔 2 〕%だが、C社から受け取る金利が⑦〔 3.5 〕%なので、1.5%の得。C社へ支払う金利L+2%は事実上、L+0.5%となっている。B社希望の変動金利L+1%よりも、⑧〔 0.5 〕%低い金利で済んでいる。
C社	⑨〔 0.5 〕%	A社から受け取る金利と、B社に支払う金利の差額。
合計	⑩〔 2 〕%	固定金利で借り入れた場合の、A社とB社の金利水準の差額、マイナス、変動金利で借り入れた場合のA社とB社の金利水準の差額。

設問 16

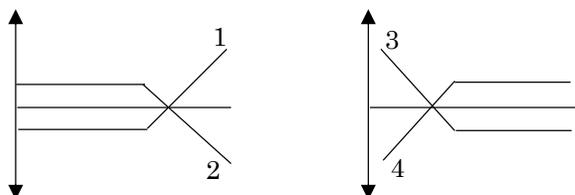
甲が乙から、株式 B を一株当たり 1000 円で売却する権利、すなわち、プットを購入したとする。プレミアムは 100 円である。※株価が原資産価格と等しい場合には、権利を行使すると仮定する。

このとき、甲の権利行使の有無、損益を下の表（単位：一株当たりの円）に示した場合、それぞれの〔 〕に入る数値を記入しなさい。

原資産価格 (株価)	権利行使 (行使=1、 不行使=2)	乙へのプレミアムの 支払い額 ※数字は マイナスで表記する こと	権利行使の場合の損 益 ※プレミアムの 支払いを除く	最終損益
800	〔 1 〕	〔 -100 〕	〔 200 〕	〔 100 〕
900	〔 1 〕	〔 -100 〕	〔 100 〕	〔 0 〕
1000	1	〔 -100 〕	〔 0 〕	〔 -100 〕
1100	〔 2 〕	〔 -100 〕	-----	〔 -100 〕
1200	〔 2 〕	〔 -100 〕	-----	〔 -100 〕

次に、甲の損益のグラフを描いたと仮定する。ただし、縦軸が損益で上に行くほど黒字、横軸が B の原資産価格で右に行くほど高値とする。このとき、正しいグラフの形状はどれか、選択肢 1～4 の中から選び、番号で答えなさい。解答⇒〔 3 〕

(選択肢)



さらに、①グラフが折れ曲がる箇所の横軸の数値、②グラフが水平になっている部分の縦軸の数値、③グラフが横軸と交わるときの横軸の数値をそれぞれ答えなさい（単位：円）。

① の解答⇒〔 1000 〕 ②の解答⇒〔 -100 〕 ③の解答⇒〔 900 〕

設問 17 信用デリバティブを説明した下の文章のそれぞれの〔 〕に入る語句として適切なものを選択肢から選び、各番号で解答しなさい。なお、同一の語句が複数回該当することもある。また、選択肢には不要なものも含まれている。

信用デリバティブは、アルファベット三文字で〔 12 〕ともいわれている、一種の信用保証である。たとえば、甲がA社の社債を保有していて、それを保証の対象にしたい場合には、この社債は〔 5 〕と呼ばれる。乙がその保証を供与したとする。A社が〔 8 〕した場合に、甲は乙にこの社債を渡して額面相当の金額を受け取るか、社債を市場で売却した場合の金額と額面金額との差額を乙から受け取ることになる。後者の方法を〔 1 〕決済という。

信用デリバティブの料金つまり保証料は、通常、パーセント（プロテクション料率）で示される。たとえば、甲と乙の間に仲介業者・丙がいる場合に、「A社債・10年物、円建て、20-30ベース・ポイント」などと丙が提示する。ベース・ポイントとは、0.01パーセントのことである。上記の料率の場合は、〔 16 〕が〔 15 〕に20ベース・ポイント支払い、〔 14 〕が〔 16 〕に30ベース・ポイントを支払うことになる。

〔選択肢〕

1. オークション、2. 先物、3. 差銀、4. 三者クレジット、5. 参照クレジット、6. 対応クレジット、7. ダブルフォールト、8. デフォルト、9. デフォルメ、10. フォールト、11. CDO、12. CDS、13. CSD、14. 甲、15. 乙、16. 丙、17. 丁

設問 18 銀行・甲のある日の直物と先渡しドルの資産・負債を集計した残高が、下の表①のとおりだとする（単位：万ドル）。ただし、先渡しドルの満期はすべて同一で 3 ヶ月後と仮定する。このとき、A が行う為替持高操作・為替資金操作を説明した下の文章と表それぞれの〔 〕に入る数値を解答しなさい。また、〔 〕が選択肢になっている場合には、正しいものの番号を解答しなさい。

①	資産	負債
直物（対 A）	3	
直物（対 B）		5
先渡し（対 C）	4	
先渡し（対 D）		1

直物・先渡しを合計した総合持高は、いま〔 1 〕万ドルの〔1. 買持、2. 売持〕である。そこで、甲はまず為替持高操作によって、資産と負債の差額をなくして、スクエアにしようとする。取引高が多く、出会いが付きやすい直物の銀行間為替市場で、銀行 E に対してその取引を行ったとする。その結果を示した表②のセル「イ」または「ロ」のどちらかに、正しい数値を入れなさい（数値が何も入らないセルは、空欄のままにすること）。

②	資産	負債
直物（対 A）	3	
直物（対 B）		5
直物（対 E）	イ〔 〕	ロ〔 1 〕
先渡し（対 C）	4	
先渡し（対 D）		1

次に銀行・甲は、直物と先渡しそれぞれの決済日に、ドルの受け渡しに過不足がないようにと、為替資金操作を行う。いま直物取引については、決済日にドルが〔 3 〕万ドル不足し、先渡し取引については、決済日にドルが〔 3 〕万ドル余る。そこで、甲は、〔1. 直先スワップ、2. 先先スワップ、3. アウトライト先渡し〕取引を行う。その相手を銀行 F であると仮定する。

③	資産	負債
直物（対 A）	3	
直物（対 B）		5
直物（対 E）	イ〔 〕	ロ〔 1 〕
直物（対 F）	ハ〔 3 〕	ニ〔 〕
先渡し（対 C）	4	
先渡し（対 D）		1
先渡し（対 F）	ホ〔 〕	ヘ〔 3 〕

その結果を入れ込んだ表③のハ〔 〕以下のセルに適切な数値を入れなさい（数値が何も入らないセルは、空欄のままにすること）。

設問 19 以下の各問に答えなさい。

①欧州の通貨統合が深化してきた経緯を年代順に表記すると、正しい順番は以下のどれか（年代は、古い時期⇒新しい時期で表記）。選択肢から一つを選び番号で解答しなさい。

解答欄⇒ [4]

[選択肢]

1. EMS⇒ユーロ⇒スネーク、2. スネーク⇒ユーロ⇒EMS、3. ユーロ⇒スネーク⇒EMS
4. スネーク⇒EMS⇒ユーロ、5. EMS ⇒スネーク⇒ユーロ

②EMS の制度の中で、為替相場を固定するメカニズムをアルファベット 3 文字で表記すると、以下のどれか。選択肢から一つを選び番号で解答しなさい。解答欄⇒ [4]

[選択肢]

1. ECC、2. ECU、3. EMU、4. ERM

③1992 年に起きた欧州での通貨危機に関連した以下の各文の中で、適切なものの番号を掛け算するといくつになるか、整数で解答しなさい。ただし、番号 1 の文は存在しない。また、正しい文が一つもない場合には、「0」（ゼロ）を解答しなさい。解答欄⇒ [6]

2. ベルリンの壁の崩壊後、統合ドイツの金利が高めに推移した結果、他の EC 加盟国も固定レート制を維持するために金利を高めさせざるを得ず、欧州では深刻な不況と失業が起きていた。
3. デンマーク・ショックとは、EC 統合をさらに進めようとしていたマーストリヒト条約が、デンマークの国民投票で否決された（批准が承認されなかった）ことである。
4. 通貨危機の対象は、イギリスのユーロやイタリアのフランなど、固定相場制に耐えられそうにないと予想された通貨であった。
5. イングランド銀行はこの投機攻撃には敗退したものの、ERM からは離脱せずにより切った。

④ユーロの現金（硬貨、銀行券）の利用・流通がスタートした年代はいつか。西暦四桁で答えなさい。解答欄⇒ [2002]

⑤経済の発展度、物価水準、金利、失業率などマクロ経済の状況に近い国同士であるゆえに、通貨を一つにすることが可能ないし妥当とされる地域・複数国のことを何と呼ぶか。選択肢から一つを選び番号で解答しなさい。解答欄⇒ [6]

[選択肢] 1. 裁量為替圏 2. 最高為替圏 3. 最適為替圏 4. 裁量通貨圏 5. 最高通貨圏 6. 最適通貨圏

設問 20 以下の各問に答えなさい。

①EU 加盟国がユーロを導入するために必要な基準・条件を説明した以下の文の中で、正しいものを選択肢から一つを選び番号で答えなさい。解答欄⇒ [3]

[選択肢]

1. 物価上昇率が、加盟国中でもっとも低い3カ国の平均よりも2%以内である。
2. ERM IIに参加したうえで、為替レートの変動率が対ユーロで2年間、平均10%以内である。
3. 単年度の財政赤字が、その国のGDP比で3パーセント以内である。
4. その国の政府債務残高が、GDP比で30パーセント以内である。

②IS バランスの式として正しいものはどれか。選択肢から一つを選び番号で答えなさい。

解答欄⇒ [1]

[選択肢]

1. $S - I - (G - t) = X - M$
2. $S - I - (t - G) = X - M$
3. 貯蓄－投資－政府純支出＝国際収支
4. 貯蓄－投資－政府純支出＝経営収支

設問 21 以下の説明文①～④の内容に最も該当する語句を選択肢のボックスから選び、番号で解答しなさい。なお、選択肢には不要なものも含まれている。

①欧州中央銀行が、ユーロ加盟国の銀行を一元的に監督する制度。解答欄⇒ [7]

②EU 内の有価証券にかかわる取引や制度をある程度統一的な方向にもっていこうというプラン。

解答欄⇒ [6]

③EU 内でユーロ非加盟国がユーロに対して、為替レートを固定する制度。解答欄⇒ [3]

[選択肢]

- | | | | | |
|-----------|--------------|-----------|--------|---------|
| 1. EMS | 2. ERM | 3. ERM II | 4. ESM | 5. 銀行同盟 |
| 6. 資本市場同盟 | 7. 単一監督メカニズム | | | |

設問 22 以下の各文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

- ①ESM（欧州安定メカニズム）は、ユーロ加盟国が出資したり債券を発行したりした資金で、必要ときに国や銀行を支援するというものである。解答⇒ [1]
- ②資本市場同盟の内容は、単一監督メカニズム、単一破綻処理メカニズム、および、預金保険制度である。解答⇒ [2]
- ③単一監督メカニズムとは、ドイツの中央銀行・ブンデスバンクが、加盟国の銀行を一元的に監督するというものである。解答⇒ [2]
- ④単一破綻処理メカニズムの目的の一つは、銀行危機が財政危機に直結しないようにすることである。解答⇒ [1]
- ⑤預金保険制度の内容の一つは、銀行預金に保険をかけておいて、銀行の経営が危なくなったときに（公的資金で救済するのではなく）預金者に保険金を支払ったうえで破綻させる、というものである。解答⇒ [1]
- ⑥銀行が、国の財政によって救済されることを前提にして、経営規律が緩んでしまうことは、モラルハザードだといえる。解答⇒ [1]
- ⑦銀行同盟の目的の一つは、銀行の危機と国家財政を分断することである。解答⇒ [1]

設問 23 現在、北方国の通貨 Seiran のレートが、 $\$1 = \text{Seiran } 20$ であり、近い将来、 $\$1 = \text{Seiran } 18$ になると予想されている。あなたが、借入れを起点とした直物為替取引で為替投機を行うと仮定した場合、どのような手順となるか、以下の問に解答しなさい。なお、借入れの金利はゼロパーセントで、為替取引の手数料などの費用もかからないと仮定する。

問① 現在と比較して、Seiran の対ドルレートは、どう予想されているか。

選択肢：1. 高くなると予想、2. 安くなると予想 解答⇒ [1]

問② 借り入れる通貨は、どちらか。選択肢：1. ドル、2. Seiran 解答⇒ [1]

問③ この為替投機による利益率は、およそ何%か。小数点 1 位まで答えなさい。

解答⇒ [11.1]

設問 24 以下の各文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

- ① 通貨危機や国際的な金融危機は、経常収支型と金融（資本）収支型に分けることができる。
解答⇒ [1]
- ② 財務省と中央銀行を合わせて、通貨当局という。解答⇒ [1]
- ③ 為替市場への介入の決定権限は中央銀行にあり、介入操作は財務省が行う。
解答⇒ [2]
- ④ 自国通貨の売り介入は、すなわち、民間銀行部門へのマネタリーベースの減少（中央銀行預け金への入金）となる。 解答⇒ [2]
- ⑤ スピルオーバー（コンテージョン）とは、ある国で起きた危機が、その国の社会や政治など思わぬ部門に影響すること、または、他の国に波及していくことである。 解答⇒ [1]
- ⑥ マネタリーベースとは、通貨当局が民間部門に提供するマネーである。 解答⇒ [1]
- ⑦ マネーストックの定義には、民間企業・個人が持つ預金は含まれない。 解答⇒ [2]
- ⑧ 為替市場介入とは、通貨当局が民間の為替取引に参加して、為替レートに影響を与えようとする行為である。 解答⇒ [1]
- ⑨ 不胎化とは、為替市場介入によって生じるマネタリーベースや金利の変化を債券のオペレーションによって、通貨当局が中和しようとする行為である。 解答⇒ [1]

設問 25 以下の各文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

- ① 1997 年の危機が起きるまでは、タイは主に米ドルに対して自国通貨のレートを安定させる制度を採っていた。1
- ② タイで始まったアジア通貨・金融危機は、ASEAN 内に連鎖していったが、他のアジア諸国には波及しなかった。2
- ③ 1998 年に危機にみまわれたのは、LTCM なるアメリカの投資銀行だった。2
- ④ 対ドルでカレンシーボード制を採っていて、2001・02 年に金融危機が起きたのはアルゼンチンである。1
- ⑤ アメリカで 2007 年に勃発した金融危機は、返済能力が比較的低いとされる借り手に対する住宅ローンの焦げ付きが、一つの発端である。1
- ⑥ アメリカでの 2007 年発の金融危機は、2008 年 9 月にリーマン・ブラザーズという商業銀行の倒産にまで至った。2